

エコニュース さって



第 8 6 号
令和 3 年 8 月 17 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

令和 3 年度（2021 年度）「さって市民環境ネット」活動計画一覧

さって市民環境ネットでは、本年度の事業を次のとおり計画しております。

事業項目		開催時期	場所	備考
スタッフ定例会		月 1 回 第 3 水曜日	中央公民館	幸手市環境課と連携して実施
環境講座の開催	中川探検ウォーク	5 月	東公民館～宇和田公園	
	見学会	11 月頃	環境配慮企業など	
	野鳥観察	1 月末～2 月初め	中川流域ほか	
	座学と実習	3 月上旬	中央公民館	
	ハウネンエビ観察	5 月	西公民館と千塚団地 周辺の水田	
	学校出前講座	先方と打合せ	幸手小ほか	
腐葉土と野菜づくりの会		毎月第 3 日曜日	ひばりが丘桜泉園ほか	
行幸湖の浮島づくり		10 月	権現堂第 1 公園、行幸湖	
エコライフ DAY 実施		5 月～7 月	小、中、高校等学校ほか	
緑のカーテン作り		5 月～9 月	南公民館	
中川流域、行幸湖の植物、 生き物の観察		年間を通して随時	中川流域、行幸湖ほか	
展示会 出展	健康福祉まつり	11 月上旬の日曜日	ウエルス幸手	
	子育て応援まつり	12 月上旬の日曜日	ウエルス幸手	
「エコニュースさって」発行		原則年 6 報	会員、学校、公共施設へ	

「エコライフ DAY 2021 宣言式」 開催される

報告：坂本

エコライフ DAY 宣言式が 5 月 13 日（木）市長室で開催されました。

エコライフ DAY とは、「みんなで一日、環境のことを考えて行動する日」のことをいいます。



市長と共に環境ネットのメンバー

エコライフ DAY チェックシートを使い省エネ、省資源の生活を一日体験するものです。

木村市長は、多くの市民に地球温暖化への関心を持っていただき、足元からの取り組みが大切であると発言された。また、今年の目標は幸手市全体で参加者 6000 人で、二酸化炭素削減量は、5148 kg との発言があった。

- ・主催は、幸手市とエコライフ DAY 実行委員会（さって市民環境ネット）。

- ・実施日は、令和 3 年 7 月 1 日（木）～9 月 30 日（木）の間の 1 日。

・対象

- ① 市内小中高生、その家族及び教職員
- ② 事業所、各種団体の職員
- ③ 一般市民
- ④ 市役所職員

・実施方法

埼玉県ホームページ上の「情報を探す」画面に「エコライフ」を入力すると、「エコライフ DAY 埼玉への参加はこちら」の窓口があり、そこでチェックシートを作成し、「申込む」をクリックすれば完了です。

なお、今年からチェックシートの配布は負担軽減、省資源の立場から取りやめになり、パソコンやスマホでの対応となりました。

日本政府も 2050 年までに温室効果ガスの排出をゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素社会実現を目指すことを宣言しています。後世に良好な環境を引き継ぐことは、我々としても積極的に取り組みたいものです。皆さんもエコライフ DAY に参加しましょう。

南公民館の「緑のカーテンづくり」実施

報告：坂本

令和 2 年は、コロナ禍にあって、実施を見送りました。しかし今年は、3 密を避け、感染対策を取りながら何としても南公民館において「緑のカーテン」を実現し、自然の清涼剤にしたいという強い思いで実施いたします。

当初は、ゴーヤを育てることを考えましたが、南公民館の予定場所に行くと、今年は既に除草剤が散布された後のことでした。

この除草剤の主成分「グリホサート」の発がん性問題については、日本政府の考えは、内閣府

食品安全委員会において、発がん性をはじめ、神経毒性、繁殖能に対する影響は認められないと結論づけています。

しかし、ヨーロッパにおいては、「グリホサート」に発がん性の疑いがあり、使用禁止や規制強化の動きがあります。

以上のような経緯から、今年はゴーヤではなく、ひょうたん、ヘチマ、アサガオで緑のカーテンづくりを行うこととします。

5月14日(金)、ホームセンターで苗を買いました。ひょうたん4本、アサガオ4本、おかわかめ2本です。ヘチマの苗は販売されていなかったのので、種を買い、さちネットの会員が成長させてから移植することにしました。



大きくなると願い、瓢箪を植える



左は瓢箪、右はヘチマ、アサガオ

苗を植える作業をしていると、ひょうたんが大きくなると、ネットを壊すのではないかと、台風が来たらどうなる？ヘチマのたわしはどうやって作るのか？色々ことを話しながら楽しく作業を終えました。

6月12日(土)、ヘチマが成長したので、ネットを張りヘチマ6本、アサガオ6本を植えました。ひょうたんなどを植えてから約1か月後です。その後、ヘチマの茎は虫にかじられ、苗そのものがピンチです。しかし、ひょうたんの勢いは増すばかりです。緑のカーテンとしての機能を十分に果たしています。

「ホウネンエビ観察会」開催される

報告： 久保田

一般募集による今年のホウネンエビ観察会は、昨年に引き続きコロナ禍により開催中止にしました。しかしながら、ホウネンエビの観察は、さちネットのメンバーによって、今年も継続されました。そのようすを『ホウネンエビ通信』としてメンバーに配信しましたので、ここにまとめます。



お腹を上にして泳ぐホウネンエビ

▼5月15日

メンバー福田さんよりメッセージが入りました。「ホウネンエビのお知らせ。昨日、千塚の田んぼに発生していました。1センチ位でした。お知らせします」。

次の日、千塚の菅谷田んぼに行きまして、採取してきました。まだ数は少なく、すぐは見つかりま

せんでした。ただ、ハウネンエビの幼生と思われるもの（小さな生き物、1mm弱）はたくさんいますので、これから数は増えていくものと思われます。

▼5月23日

さちネットのメンバー5人+1人で、菅谷田んぼにハウネンエビの観察に行きました。例年の今頃に比べ、発生している数が少ないような印象でした。



ハウネンエビのいる田んぼの前で

▼7月13日

今年のハウネンエビ観察は、これで終りかと思いましたが、メンバー福田さんよりびっくりのメッセージが入りました。「おはようございます、東3町目自治会館北の休耕田に、ハウネンエビが泳いでいました。珍しいと思い連絡させていただきました。6月の初旬には、消えると思っていたので、びっくりしました。報告まで」。

続いてメンバー坂本さんより。「福田さんに教わった水溜まりです。ハウネンエビ、ゲンゴロウ、ヒル、オタマジャクシなどがいました。ハウネンエビの数は少なく、写真を撮るのが難しい」と休耕田の写真付きで。



ハウネンエビの発生した休耕田

7月にハウネンエビの発生！？ これはめずらしいことです。ハウネンエビは、発生して卵を産むとすぐ死んでしまいます。ほぼ10日の寿命だといわれています。しかし土の中に産んだ卵は、田んぼの水がひけて、土が乾いてのその中で10～20年も生き続けるとのことです。そしてそこに水が入り、ある程度の水温になるとその卵がかえり、ハウネンエビになります。

この場所は休耕田になってから、田植え時にも水が入ることがなかったのですが、今年の7月は雨が多く、この休耕田にも水がたまりました。7月の気温でその水も温められ、ハウネンエビが発生したと思われます。

坂本さんのメッセージから次の日現場に行ってみましたが、すでに水は、ほとんど残っていなく、オタマジャクシは見られたものの、ハウネンエビは見つけられませんでした。福田さんと坂本さんは、珍しい現象を目撃したことになります。

【会員募集中！】 環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ： 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)